

Dr.Sum EA & DataCoordinator 導入事例

NECライティング社

**BIツールとデータ統合・連携ソフトウェアの組合せにより
全社統一のデータ見える化を実現。
成長戦略実現に向け、経営に役立つ情報を活用。**

あかりと光のイノベーションで多彩な製品を提供するNECライティングは、成長戦略の実現に向け、マネジメントの見える化を実現する新経営情報システム「なびルック」を構築。使いやすさを重視し、BI(ビジネス・インテリジェンス)ツールと異種プラットフォームのデータ統合・連携を実現するソフトウェアの連携ソリューションを利用。短期間で構築した「なびルック」利用は、まずCCFL(冷陰極蛍光ランプ)部門に始まり、今後は経営層への充実した情報提供とともに他部門への展開も進める計画です。



NECライティング株式会社
IT推進部
部長
宮田 拓司 氏



NECライティング株式会社
IT推進部
マネージャー
早坂 佳巳 氏



NECライティング株式会社
IT推進部
小坂 司 氏



社名：NECライティング株式会社
本社：〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー
設立：2000年1月18日
資本金：10億円
従業員数：905名(2008年3月末現在)
事業内容：CCFL(冷陰極蛍光ランプ)、「ホタルルックシリーズ」や「ライフルックシリーズ」などの一般ランプなどの各種光源、住宅用・施設用の照明器具の開発、製造および販売
URL：<http://www.nelt.co.jp>

成長戦略を実現するため、 全社統一のデータ見える化を図る

あかりと光のイノベーションで多彩な製品を提供するNECライティング株式会社(社長：増田博行 以下NECライティング)では、マネジメントの見える化を実現するため、BIツール「InfoFrame Dr.Sum EA(Extended Architecture)」とデータ統合・連携を実現する「InfoFrame DataCoordinator」の連携ソリューションを利用した新経営情報システム「なびルック」を構築しました。「なびルック」構築に至った背景について、IT推進部 部長の宮田拓司氏は次のように語ります。「新経営情報システム構築の直接のきっかけは、当時の社長からの“成長戦略を実現するため、全社統一のKPIによるデータの見える化を実現したい”という指示でした」。NECライティングでは、すでに別なツールを使用していましたが、複雑・多機能で構築も難しく、各事業拠点や部門ごとに利用する部門に閉じたツールになっていました。「情報自体は存在していても、体系立てての整理が足りず、必要な情報を取り出すのに時間がかかり、職位階層ごとにいろいろなレベルの情報の提供が必要になっていました。ですから、タイムリーに体系立った情報を見える化し、迅速な意思決定につなげ

られる経営情報システムがどうしても必要だったのです」と宮田氏。2007年3月頃、新経営情報システム構築に向けた検討が始まりました。「まず、これから成長戦略を実現するため、どのような指標をKPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標)とするかという検討から始めました」とIT推進部 マネージャーの早坂佳巳氏は振り返ります。この検討中、IT推進部では、経営情報システムに関する豊富なノウハウを持つ、NECの産業ビジネス営業本部 主任の坂根好紀、製造・装置業ソリューション事業本部 経営ソリューション エキスパートの久保井博子の両名に相談。コンサルティング段階からNECが参加しました。

リーズナブルなコストと柔軟性、 何よりも使いやすさを重視して選定

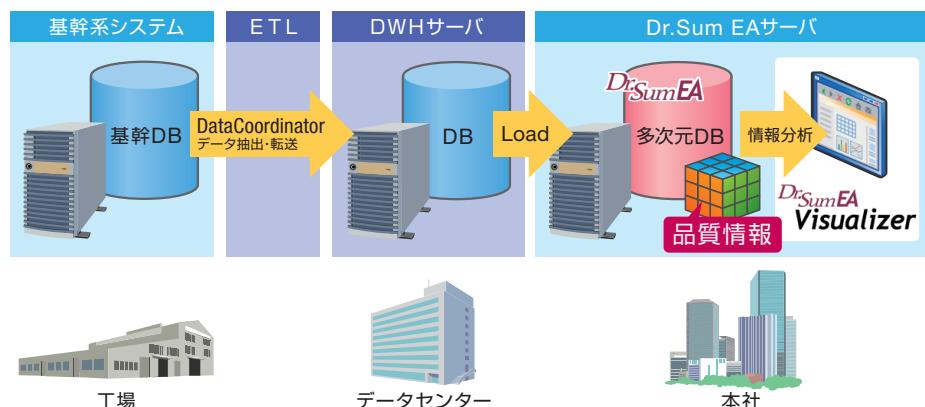
NECライティングでは、従来のツールの使用経験とNECとの相談結果を踏まえ、慎重に選定を進めてきました。早坂氏は、選定のポイントを次のように述べます。「重視したのは、リーズナブルなコスト、フレキシビリティ、そして最も重要なのが使いやすさでした」相談を受けたNECが提案したのは、BIツールの「InfoFrame Dr.Sum EA」と、データの統合・連携を実現

する「InfoFrame DataCoordinator」の連携ソリューションでした。「システムを内製化する場合、やはりコストと開発期間が重要です。他製品に比べて「Dr.Sum EA」は安価ですし、何よりも簡易に開発できることを評価しました。一方「DataCoordinator」については、データ転送における信頼性やプログラムレスで実行できる利便性を考慮しました」と早坂氏。「『Dr.Sum EA』は簡単に画面づくりができますし、内製の場合データの整合をとるのが大変ですが、『DataCoordinator』はパラメータを設定するだけで簡単にデータ連携が可能でした」と評価するのは、IT推進部の小坂 司氏。NECライティングでは、2008年6月に購入を決定。4ヵ月の構築期間を経て10月にシステムをリリースしました。まず利用を開始したのは、主に液晶のバックライトなどに利用されるCCFL(冷陰極蛍光ランプ)部門でした。「リリース前には、ユーザが利用しやすいようにと、できるだけわかりやすいマニュアルを作成して配布しました」と小坂氏。

実績豊富なBIツールと 異種プラットフォームのデータを 統合・連携するソフトウェアを連携

「なびルック」構築に使用したのは、二つのソフトウェアの連携ソリューションです。一つは、経営層から部門担当者まで、多様なデータの活用環境を提供するツールとして豊富な実績を持つBIツールの「InfoFrame Dr.Sum EA」です。独自開発の多次元高速集計エンジンによって、事前設計なしで、目的の多次元データベースを生成・集計でき、煩わしいキューブ設計が不要ですし、Dr.Sumへのデータロードもプログラミングなしで行えます。また、誰でもいつでも簡単に情報を活用できる多彩なインターフェースを持ち、きめ細かなレポートやモニタリングの機能を備えています。もう一つの「InfoFrame DataCoordinator」は、メインフレームやオープンサーバなど、異種のプラットフォーム上の

- データ活用/情報分析ソフトウェア「Dr.Sum EA」と容易に構築可能なデータ連携ソフトウェア「DataCoordinator」を使い、短期間で製品の品質情報等を収集加工、本社からもタイムリーに状況を把握できる仕組みを構築



データをリアルタイムでシームレスに統合・連携させるソフトウェアです。既存のデータベースに一切変更を加えることなく、簡単にデータ連携環境を実現でき、連携のためのプログラム開発も不要という大きな特長を持っています。この二つの連携するソリューションによって、企業内に分散しているデータベースからリアルタイムにデータを抽出し、多次元での集計・分析ができるリアルタイムBIが容易に実現できます。

ボトムアップで見える化が進み、 経営層へ提供する情報の充実や 他部門への展開を計画中

システムが稼働して8ヵ月。現在の状況について、宮田氏はこう成果を語ります。「これまでは、基幹システムからデータを取り、それを加工して見ていましたが、加工のプロセスなしに一元的に役立つ情報を見られるようになりました」「CCFL部門では、現場での情報利用のニーズが多く、現在、資材費の見える化を開発しているところです」と早坂氏。NECライティングでは、利用が始まると、生産の現場から次々と“これが欲しい”“あれが欲しい”という意欲的な声が

上がっているとのこと。「これらの声をIT部門がコントロールし、見る情報のツリー構造化を進めています。トップダウンで始まった「なびルック」プロジェクトですが、導入後はボトムアップで情報の見える化が進んでいます。前期、今期、そして来期へと利用できる情報を拡大していく予定です」と、早坂氏はこれからの構想を語ります。「在庫、営業との連携」「資材費、所要と実績との比較」などの情報の見える化です。そのため、見える化をグラフィカルに表示する「InfoFrame Dr.Sum EA Visualizer」に加え、営業や部門担当者向けに簡単に情報を入手できる「InfoFrame Dr.Sum EA Datalizer」も導入予定です。「現在は、CCFL部門を中心に現場のニーズを最優先していますが、経営層に向けた見える情報の充実や、他部門で既存のシステムとの置き換えを順次進めています。また、今後大きな市場の見込めるLEDや有機EL部門では、生産が増えてきたときに対応できるよう準備を進めています」と宮田氏は締めくくりました。

お問い合わせは、下記へ

**NEC ITプラットフォームマーケティング本部
(ソフトウェアお問い合わせ)**

〒108-8425 東京都港区芝五丁目33番1号(森永プラザビル)

TEL:03(3798)7177 FAX:03(3798)8414

【受付時間】9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日・NEC所定の休日を除く)

E-mail : contact@soft.jp.nec.com

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

●このカタログの内容は改良のため予告なく仕様・デザインを変更することがありますのでご了承下さい。
●本製品(ソフトウェアを含む)が、外国為替および外国貿易法の規定により、輸出規制品に該当する場合は、日本国外に持ち出す際に日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

詳しくは、マニュアルまたは各製品に添付しております注意書きをご参照下さい。